

糖尿病における易感染性

高血糖の影響

免疫機能の低下

神経障害

血行障害

脱水

栄養障害

神経因性膀胱
知覚障害
嚥下障害

皮膚、粘膜バリアの破綻
酸素・栄養不足

感染症のリスク増加
重症化、難治化

感染症により血糖
コントロール悪化



尿路・性器感染症に注意しましょう

SGLT2阻害薬を使用している場合

糖尿病治療薬であるSGLT2阻害薬は、余分な糖が尿として身体の外へ出され、血糖値が下がる仕組みです。その結果、尿糖が増加することで細菌の栄養源である糖が増え、尿路・性器感染症のリスクが高まります。



予防や対処のポイント

清潔を心掛けましょう

毎日入浴したり、トイレではウォッシュレットを使用するなど陰部を清潔にするようにしましょう。

十分な水分を摂りましょう(特別な水分制限の指示がない限り)

尿量を増やすことで、細菌や過剰な糖を体外へ洗い流す効果が期待できます。

症状に気付いたら主治医に相談しましょう

排尿時の痛み、トイレの回数が増える、排尿後も尿が残っている感じがする、尿が白く濁る、下腹部の痛みなどがあった場合は主治医に相談しましょう。

皮膚感染症に注意しましょう

日頃から皮膚を観察しましょう

- 糖尿病では、カンジダ症や足白癬（水虫）になりやすいと言われています。
- 足底や下腿に糖尿病水疱症という痛みを伴わない水疱や血胞ができることがあり、破裂して感染すると糖尿病壊疽に発展しやすくなります。

皮膚感染症のリスク増加

皮膚乾燥による
痒み

神経障害による
感覚の鈍化

血流が滞ることで
栄養が行き渡らない

皮膚に症状がある場合は、早めに主治医か、感染の場所により皮膚科、婦人科、泌尿器科に相談しましょう。

足病変予防のためポイント

足病変、足壊疽について

重症化すると足切断に至るケースや、感染が全身に及び敗血症となり命に関わる場合もあります。

軽症	中等度	重症
足潰瘍 蜂窩織炎	深部感染 膿瘍形成	壊疽から足の切断に至る 感染が全身に及ぶ

足病変予防のためポイント

- ① 毎日足を観察する
- ② 清潔を保つ
- ③ 乾燥を防ぐ
- ④ 蒸れを防ぐ
- ⑤ 自分に合った靴を選び、皮膚の圧迫やずれを避ける
- ⑥ 保温、温浴をして血流を保つ
- ⑦ 傷がつかないように注意する

胼胝（たこ）、鶏眼（うおのめ）、やけど、爪の切り方等の工夫



感染症を予防するためのポイント

- ① 血糖管理、合併症の評価
- ② ワクチン接種
(インフルエンザ、肺炎球菌、コロナウイルスなど)
- ③ 適切な睡眠や栄養摂取により免疫力を高める
- ④ 衛生管理 (こまめなうがい、手洗い)
- ⑤ 入浴や水分補給等尿路感染症の予防
- ⑥ 皮膚の清潔保持と保湿
- ⑦ 毎日の足の観察とケア
- ⑧ 定期的な歯科検診
- ⑨ 感染兆候の早期発見



症状がある場合は、早めに主治医か専門の医療機関に相談しましょう。